

1. 科目名 (単位数)	臨床心理学特論 (4 単位)	3. 科目番号	PSMP5135
2. 授業担当教員	武内 智弥		
4. 授業形態	講義	5. 開講学期	通年
6. 履修条件・他科目との関係	履修条件は特になし	履修形態 (通信教育)	SR
7. 講義概要	この授業では、臨床心理士の専門性や社会における役割・責任について扱う。心理学部生が一般に身につけている知識等については事前学習に位置づけ、より専門的な内容として、心理職としてのアイデンティティと倫理、ケースの考え方、そして他職種との連携の取り方などについて、より具体的に学ぶ。 さまざまなクライアントに対して、多様な枠組み・発想の仕方であうことが出来るように、基礎的なコミュニケーションについて触れた後に、複数の異なる心理療法アプローチを採り上げ、さまざまな観点を学ぶ。		
8. 学習目標	心理職は、学派にとらわれずに、クライアントや現場に応じて、必要な役割を担い、心理アセスメントを行い、適切な心理学的支援法を用いて、クライアントやその現場に資することが求められている。臨床心理士としての意識を確立し、その責任のあり方を自覚すること、そして、卒業後の学習に向けての基礎を作ることを目標とする。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ほぼ毎回配布する文献を読んで自分の意見を準備することを課題とする ・自分の興味のある分野の事例論文を探してきて、発表すること ・心理面接の事例 (授業で採り上げたもの等の中から 1 事例) におけるクライアントの変化について、セラピストのどのような働きかけが、どのように有意義であったかについてまとめなさい。また、そのような働きかけができるようになるために (そのような発想ができるようになるために)、現時点で自分が日々行っている心理職としての日常的なトレーニングについて、整理しなさい。 		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】 指定しない 【参考文献】 各テーマに関連した文献を指示する。		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 <ul style="list-style-type: none"> ・各テーマの内容を理解し臨床心理士としての自覚を高める。 ・自分の日常や感性などと絡めて考え、自分なりの意見を有すること ○評定の方法 <ul style="list-style-type: none"> ・課題・レポートへの取り組み 50% 授業参加態度 50% ※通学, 通信共通 		
12. 受講生へのメッセージ	例えば、心理職が行う面接が、他の専門職が行う面接と同じでは、心理職が存在する意味がありません。何が、心理職としての関わりなのかを常に検討し続けられるように、その基礎を勉強したいと思います。そして、心理職として継続的な勉強の習慣を身につけてほしいと考えています。		
13. オフィスアワー	別途通知します。		
14. 学習の展開及び内容	【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】		
1～2. テーマ	自分自身について振り返る		
	【学習の目標】 自分が心理職になろうと思った動機や自分の社会的態度について振り返る 【学習の内容】 相手のために自分を使うということについて検討する。 【キーワード】 動機、逆転移 【学習の課題】 自分の動機について振り返り、援助職としての必要な点をイメージする。 【参考 文献】 M コーリィ・G コーリィ (2004). 心理援助の専門職になるために 金剛出版 津川律子・安齊順子 (2007). インタビュー臨床心理士 1 誠信書房 津川律子・安齊順子 (2007). インタビュー臨床心理士 2 誠信書房 【学習する上での留意点】 自分にも求められないことを、クライアントに本気で求めることはできません。人として平等の感覚でいることについてもよく考えること。		
3～6. テーマ	心理職としての態度・話の聞き方		
	【学習の目標】 心理職の専門性や、目指される方向性を明確にする。心理面接の基礎になる、構造について理解する 【学習の内容】 日々行うべき努力の方向性、心理職としての基礎的な態度の検討を行う。面接の構造 (方法, 部屋, 料金, 頻度など) の意味や影響について検討する。 【キーワード】 初期研修, 専門性, 治療構造, 治療契約 【学習の課題】 知識としてではなく、心理職の行なっている専門性を理解すること。面接の構造一つ一つの意味を理解すること、また、それらの上で面接が成り立っていることを学ぶ。 【参考 文献】 馬場禮子 (1999). 『精神分析的な心理療法の実践—クライアントに出会う前に』 岩崎学術出版社 Miller, S.D., Hubble, M.A. & Duncan, B.L (1997). ESCAPE FROM BABEL 曾我昌祺 (翻訳). 『心理療法・その基礎なるもの』 金剛出版, 2000 村瀬嘉代子・青木省三 (2014). 『心理療法の基本 [完全版]』 金剛出版 津川律子 (2009) 『精神科臨床における心理アセスメント入門』 金剛出版 【学習する上での留意点】 どんな専門家も生活の大半の時間を、準備や練習に費やしている。心理職が、日々行うことができる心理療法のためのトレーニングを検討すること。また、知識を蓄えるというよりも、自分たちで考え、発想していくこと。		
7～8. テーマ	精神分析学, 力動的な心理療法		
	【学習の目標】 精神分析的な心理療法の考え方 (人間観, 問題の見立て方や介入の仕方) を理解する 【学習の内容】 厳密な精神分析セッティングに触れる心理職は限られているが、力動的なアプローチは多くの心理面接に有用な考え方である。精神分析の中で、分析家が行なっている思考や検討を学ぶ。 【キーワード】 対象関係, 転移・逆転移 【学習の課題】 言語的なやりとりとその人との無意識的なやりとりを、精神分析がどのように検討するかに触れる。		

<p>【参考 文献】 Casement,P. (1985). Learning from the patient. 松木邦裕 (訳)『患者から学ぶ』岩崎学術出版社, 1991 栗原和彦 (2019). 臨床家のための実践的治療構造論 遠見書房</p> <p>【学習する上での留意点】 概念や用語が複雑であったり抽象的であるが、それが実際の・具体的に指し示すことを考えること。</p>	
9～10.テーマ	認知・行動論的アプローチ
<p>【学習の目標】 認知・行動論的アプローチの考え方 (人間観, 問題の見立て方や介入の仕方) を理解する</p> <p>【学習の内容】 認知行動療法において, どのように問題を見立てて, クライエントの思考を整理して, どのように扱うのかについて検討する。</p> <p>【キーワード】 自動思考, スキーマ, 7つのコラム</p> <p>【学習の課題】 個別性という観点で, 事例の検討・介入の仕方を学ぶだけでなく, エビデンスの求め方を含めた一般性の観点からも, その知見を学ぶ。</p> <p>【参考 文献】 伊藤絵美 (2008). 事例で学ぶ認知行動療法 誠信書房 Beck,J.S. (2011). Cognitive Behavior Therapy: Basics and Beyond 伊藤絵美・神村栄一・藤澤大介(訳) 『認知行動療法実践ガイド 基礎から応用まで』第2版. 星和書店 山上敏子 (2016). 『新訂増補 方法としての行動療法』金剛出版</p> <p>【学習する上での留意点】 一見, テクニカルな技法に思えるが, いかにクライエントをアセスメントして, クライエントとのやりとりを基礎とした療法であるかも学ぶこと。</p>	
11～12.テーマ	人間性心理学, 来談者中心療法
<p>【学習の目標】 来談者中心療法の考え方 (人間観, 問題の見立て方や介入の仕方) を理解する</p> <p>【学習の内容】 来談者中心療法やパーソンセンタードアプローチにおいて, どのような態度でどのようなことに焦点をあてて, クライエントを援助しているのかを検討する。</p> <p>【キーワード】 自己一致, 共感的理解, 無条件の肯定的関心</p> <p>【学習の課題】 働きかけることの意味と働きかけないことの意味を検討し, それの適した場面やクライエントについても合わせて理解する。</p> <p>【参考 文献】 佐治守夫 (2007). 『臨床家 佐治守夫の仕事 2 事例編 治療面接』赤石書店 岡村達也・小林孝雄・菅村玄二 (2010). 『カウンセリングのエチュード』遠見書房 吉良安之 (2015). 『カウンセリング実践の土台づくり』岩崎学術出版 Axline,V.M. (1964). DIBS in search of self 岡本浜江 (訳) 『開かれた小さな扉—ある自閉児をめぐる愛の記録』日本エディタースクール出版部, 2008</p> <p>【学習する上での留意点】 傾聴という活動が, 単に, 批判をせずに話を聴くということではないこと, また, どうすることで効果的に用いられるかについて理解すること。</p>	
13. テーマ	セラピューティックアセスメント
<p>【学習の目標】 セラピューティックアセスメントの考え方 (アセスメント観や協働的なセッションのもち方) を理解する</p> <p>【学習の内容】 セラピューティックアセスメントが, どのような専門性で, クライエントをどのような存在として捉え, 心理検査の結果という今ある題材をどのように使って, 協働的に目標に向かって行くかを理解する。</p> <p>【キーワード】 治療的アセスメント, フィードバック面接</p> <p>【学習の課題】 一方的ではなく, つまり, 対等な立場で, どのように目標に向かう協働を行なっていくかについて学ぶこと。</p> <p>【参考 文献】 Finn,S.E. (2007). In our clients' shoes(Counseling and Psychotherapy) 野田昌道・中村紀子 (訳) 『治療的アセスメントの理論と実践』金剛出版, 2014</p> <p>【学習する上での留意点】 心理アセスメントのことだからと心理面接とは別のものと捉えずに, 協働的に課題を検討したり, 目標を検討したりという方法, また, クライエントへの配慮や面接の進め方について, 学ぶこと。</p>	
14～15.テーマ	ブリーフセラピー・ナラティブセラピー
<p>【学習の目標】 ブリーフセラピー・ナラティブセラピーの考え方 (人間観, 問題の見立て方や介入の仕方) を理解する</p> <p>【学習の内容】 短期的に問題を解決するために, 効果的な働きかけとされるブリーフセラピーの技法を学ぶことで, そこから, どのような働きかけが変化を促す働きをするのかを検討する。</p> <p>【キーワード】 解決志向, 社会的構成論</p> <p>【学習の課題】 クライエントやセラピストのことをどのような人間観で捉えているかということについて, また, 技法の背景にある狙いや意味合い, その技法の使い方について理解する。</p> <p>【参考 文献】 森俊夫・黒沢幸子 (2002). 『森・黒沢のワークショップで学ぶ解決志向ブリーフセラピー』ほんの森出版 Duncan,B.L, Hubble,M.A. & Miller,S.D. (1997). Psychotherapy with “Impossible” Case 児島達美・日下伴子(翻訳). 『「治療不能」事例の心理療法—治療の現実に根ざした臨床の知—』金剛出版, 2001</p> <p>【学習する上での留意点】 単なる突飛な質問群のように捉えることなく, その背景にある意図や, その質問が効果的であるという根拠の見つけ方 (クライエントのリソースをアセスメントする視点) を理解すること。</p>	
16～17.テーマ	臨床動作学, 臨床動作法
<p>【学習の目標】 臨床動作法の考え方 (人間観, 問題の見立て方や介入の仕方) を理解する</p> <p>【学習の内容】 臨床動作法における見立ての仕方, 動作を理解しつつ心理を理解するという枠組みを学ぶ。</p> <p>【キーワード】 体験様式, 体験治療論</p> <p>【学習の課題】 動作と言葉を別物として捉えずに, 同じように人間の心理的な活動を理解したり, 働きかけたりできるものであることを学ぶ。</p> <p>【参考 文献】 鶴光代 (2007). 『臨床動作法への招待』金剛出版 成瀬悟策 (2009). 『からだところろ』誠信書房 成瀬悟策 (編著) (2019). 『動作療法の治療過程』金剛出版</p> <p>【学習する上での留意点】 人間の心理活動の基礎について理解しようとする視点で理解すること。からだに働きかけることの留意点や倫理的な配慮についても学ぶこと。</p>	

18. テーマ	事例検討会・ケースカンファレンスについて
【学習の目標】	事例検討会への発表者としての取り組み方や参加者としての取り組み方について理解する
【学習の内容】	事例検討会の意義やその中で出来ることについて検討する。
【キーワード】	事例検討会, ケースカンファレンス
【学習の課題】	上記内容を理解し, 自分の取り組み方について目標を立てることができる。
【参考 文献】	成田善弘ら (2018). 事例検討会から学ぶ—ケースカンファレンスをつくる 5つのエッセンス 金剛出版 藤山直樹 (監修) 大森智恵(編著) (2018). 『心理療法のポイント ケース検討会グループから学ぶ』 創元社
【学習する上での留意点】	発言することを通じての理解や練習といったこともあるため, 積極的に自分の検討したことを発言するなど, ケースカンファレンスにどのように取り組むかについて, よく考えて欲しい。
19~20. テーマ	保険医療分野における臨床心理学, 心理臨床
【学習の目標】	総合病院や単科精神科病院, クリニックでの心理職の役割や実情について理解する
【学習の内容】	テーマに沿った事例を読んで, 上記内容について検討する。
【キーワード】	保険医療, チーム医療
【学習の課題】	上記内容を理解し, 心理職の専門性や自分がそのような分野で働くと仮定した場合の立ち居振る舞いについて, 具体的にイメージすることができる。
【参考 文献】	臨床心理学 第15巻第1号(特集:これだけは知っておきたい医療・保健領域で働く心理職のスタンダード) 金剛出版
【学習する上での留意点】	医療では多くの職種で専門職がチームを組んでいるので, そうした役割分担や連携についても理解すること。
21~22. テーマ	教育分野における臨床心理学, 心理臨床
【学習の目標】	小学校, 中学校・高校, 教育相談所などでの心理職の役割や実情について理解する
【学習の内容】	テーマに沿った事例を読んで, 上記内容について検討する。
【キーワード】	チーム学校, 不登校, スクールカウンセラー
【学習の課題】	上記内容を理解し, 心理職の専門性や自分がそのような分野で働くと仮定した場合の立ち居振る舞いについて, 具体的にイメージすることができる。
【参考 文献】	臨床心理学 第15巻第2号(特集:これだけは知っておきたい学校・教育領域で働く心理職のスタンダード) 金剛出版
【学習する上での留意点】	学校は, 児童生徒と教員が中心である組織であることを踏まえた役割分担や連携についても理解すること。
23~24. テーマ	福祉分野における臨床心理学, 心理臨床
【学習の目標】	児童相談所等の福祉施設での心理職の役割や実情について理解する
【学習の内容】	テーマに沿った事例を読んで, 上記内容について検討する。
【キーワード】	アウトリーチ, 地域支援, 包括的アセスメント
【学習の課題】	上記内容を理解し, 心理職の専門性や自分がそのような分野で働くと仮定した場合の立ち居振る舞いについて, 具体的にイメージすることができる。
【参考 文献】	臨床心理学 第15巻第5号(特集:これだけは知っておきたい福祉領域で働く心理職のスタンダード) 金剛出版
【学習する上での留意点】	多くの暮らしのスタイルや生き方について知り, 生活をより直接的に支える中で, 心理の専門性をどう活かすかを理解すること。
25~26. テーマ	産業・労働分野における臨床心理学, 心理臨床
【学習の目標】	産業・労働分野での心理職の役割や実情について理解する
【学習の内容】	テーマに沿った事例を読んで, 上記内容について検討する。
【キーワード】	EAP, ストレスチェック, 復職支援・リワーク
【学習の課題】	上記内容を理解し, 心理職の専門性や自分がそのような分野で働くと仮定した場合の立ち居振る舞いについて, 具体的にイメージすることができる。
【参考 文献】	臨床心理学 第15巻第3号(特集:これだけは知っておきたい産業・組織領域で働く心理職のスタンダード) 金剛出版
【学習する上での留意点】	会社組織の形や仕事と人生の関係, そして, それらを取り巻く法律についても理解すること。
27~28. テーマ	司法・矯正分野における臨床心理学, 心理臨床
【学習の目標】	司法・矯正分野での心理職の役割や実情について理解する
【学習の内容】	テーマに沿った事例を読んで, 上記内容について検討する。
【キーワード】	少年事件, 被害者支援
【学習の課題】	上記内容を理解し, 心理職の専門性や自分がそのような分野で働くと仮定した場合の立ち居振る舞いについて, 具体的にイメージすることができる。
【参考 文献】	臨床心理学 第15巻第4号(特集:これだけは知っておきたい司法・矯正領域で働く心理職のスタンダード) 金剛出版
【学習する上での留意点】	非行少年・成人事件の手続きや, 各機関の役割も理解すること。
29~30. テーマ	臨床心理学における研究倫理, 心理臨床における実践倫理
【学習の目標】	心理学一般, 心理職一般に言われている倫理について理解する
【学習の内容】	守秘や搾取の問題 (自分の目的のために相手を利用しないこと, 相手を大切にすることを含む), 多重関係などの問題について具体的に学ぶ。
【キーワード】	守秘義務, 多重関係
【学習の課題】	研究を行う前に, また, 現場に出る前に理解すべき倫理について学び, 自分の態度について振り返る。
【参考 文献】	金沢吉展 (2006). 臨床心理学の倫理をまなぶ 東京大学出版会 津川律子・元永拓郎 (2017). 心理臨床における法と倫理 放送大学教育振興会
【学習する上での留意点】	大問題となるような倫理的問題は, 自分には起らないと思うかもしれないが, 倫理的にグレーだと思われる内容の出来事は日々起こる。いずれにせよ, 現実感を伴って自分の欲求を把握し, コントロールすることが必要であり, 人ごとと思わずに, 取り組むこと。